

株式会社ミュージックバード

第86回番組審議会 議事録

1. 開催日時 2022年11月30日(水) 15時00分～16時30分
2. 開催場所 FMセンター10階大会議室
3. 出席者
＜番組審議会委員＞
福本 ゆみ 委員
中西 健夫 委員
近藤 良 委員
麻倉 怜士 委員
高田 英男 委員

＜ミュージックバード＞
代表取締役社長 雄谷 英一
常務取締役 仁平 成彦
取締役技師長 土屋 充央
コンテンツ事業部 岩崎 育郎
コンテンツ事業部 関根 直子
4. 議事内容
(1)主な放送の活動
(2)番組試聴
5. 配布資料
(1)第86回番組審議会資料
(2)第85回番組審議会議事録
(3)2022年10月改編タイムテーブル

<MB>冒頭、2020年3月27日以来のリアル開催となったことを報告。

MQA デブラー放送の導入でより高音質となったことが極めて良い評判を得ている。

<委員>MQA 社側も放送に導入した事例として一定の評価を得ていることを喜んでいる。

(1)主な放送活動

・THE CLASSIC(121ch)【CLASSIC LIVE SELECTION】

<ストラディヴァリウス・コンサート>

7月31日/吉田南&福間洸太郎

8月7日/アラベラ美歩シュタインバッハー

8月14日/アリーナ・ポゴストキーナ

9月4日/ハーゲン・カルテット

9月11日/東京クワルテット、ハーゲン・カルテット

10月2日・9日/東京クワルテット、ハーゲン・カルテット他

10月16日/特別編~世界を魅了するストラディヴァリウス ゲスト:中澤創太(日本ヴァイオリン社長)

11月6日/スティーヴン・イツサーリス チェロリサイタル

11月13日/ベンジャミン・バイルマン、イム・ジヨン

<WORLD LIVE SELECTION>

8月21日/女流指揮者マリー・ジャコー、ウィーン響の「フランク交響曲」マキシミアン・ホルヌング(Vc)

9月18日/コンツェルトハウス 2020-2021

10月23日/シューベルティアアーデ 2021 より フランチェスコ・ピエモンテージ(P)ピアノ・リサイタル

11月20日/シューベルティアアーデ 2021 より ドーヴァー・カルテット/パヴェル・ハース・カルテット

・THE JAZZ(122ch)「楽器別モダン・ジャズ Best Library」

8月/トランペット編~ウィントン・マルサリス、ダスコ・ゴイコヴィッチ、ロイ・ハーグロヴ、日野皓正

9月/テナー・サクソ編~ソニー・ロリンズ

10月/テナー・サクソ編~チャールズ・ロイド ベニー・ゴルソン

11月/テナー・サクソ編~デクスター・ゴードン エリック・アレキサンダー

(2)番組試聴

① 122ch THE JAZZ

【番組】『Jazz in Applause』世紀の名演~マイルス・ディヴィス

(2022年9月2日<金>22:00-23:00 放送)

【出演】小針俊郎 桃井まり

【番組概要】ジャズが歴史上ただ一度ポピュラー・ミュージックのトップ・ランナーの位置に立った「Swing Age」と呼ばれた時代(1930年~45年)。「Jazz In Applause」(ジャズ・イン・アプロウズ=歓呼のジャズ)は、そんな時代を彷彿とさせるゴージャスな時間です。

<MB>Applause=拍手という意味だが、かつてのジャズシーンの中でライブハウスの熱気を伝える番組である。

小針さんはTFMのディレクター/プロデューサー。横浜ジャズプロムナードでも活躍した。

<委員>初めて聞いた自分としては、マイルスのライブ録音が途中で音が小さくなったり大きくなったりした様子を推測する解説が面白かった。マイルスの自叙伝から引用したライブハウスでのレコーディングの様子は伝わってジャズの本質を感じた。

<委員>小針氏の毒のある評論が面白い。曲間で聴きどころなどを解説してもらえたらよりよいと思う。

ライブ録音のレベルが小さいところがあったが、放送ではどのように流れたのかが気になった。

<委員>スター不在でライブエンタメの世界ではジャズがなくなるのではと危惧している。後世にジャズの魅力を伝えて

いかないといけないと思う。かつての時代背景とアーティストとの関係なども更に聞けるとよかったと思う。
<委員>ジャズが全盛のころ、クラシックのアーティストも多くがジャズの演奏を行った時代があった。
<委員>小針さんの裏話が面白いが、プレイヤーとしての桃井さんへの振りがあった方がよい。

② 121ch THE CLASSIC

【番組】『カンマームジークコンサート』ハイドンのピアノ三重奏曲
(2022年11月4日<金>16:00-18:00 放送)

【出演】近藤良

【番組概要】ケルン音楽大学留学でアマデウス弦楽四重奏団に師事したクラリネット奏者の近藤良が室内楽の魅力をご案内。毎回テーマを決め、作曲家のエピソードや、その時代の文化背景などもまじえてレクチャーコンサート風に紹介します。

<MB>コンセプトは楽理的ではなく演奏家の立場から音の変化を伝えたい。

<委員>心地の良いレクチャーコンサートになっている。音質も極めて良かった。語らず先ず音楽をかけ、丁寧な説明をしたあとにもう一度聞くというゆったりとしたMBらしい番組構成が美しい。クラシックの知識がない人にも聴きやすいと感じた。

<委員>近藤さんの声自体が室内楽だと感じた。説明しすぎないことが返って興味を引いた。

<委員>コロナ禍で音楽の聴き方が劇的に変わった中で、歌詞が大きな役割を持っているというデータがある。クラシックでも歌曲やオペラは歌詞の意味が重要になっている可能性がある。行間を的確に解説することが面白い。

<委員>音楽をかけて解説してからまたその音楽を聞くという手法で発見が多くあった。2回聴く良さが表れている。音楽番組のひとつのメソッドになると思う。

(3)その他ご報告

<MB>2024年2月末でMBは個人向け音楽サービスの継続を問う議案を来月の取締役会に出すことになった。24bit放送、MQAデブラー放送など高音質放送を追求してきたが、インターネットが主流になる中、衛星の音楽サービスの経営環境は厳しくなっている。当社のパートナーであるキャンシステム社が最大手のUSEN社に合併したことでキャンシステムは契約満了の2024年2月末をもって協業から離脱することとなった。それにより、当社は単独で衛星放送を維持できるのか、新たなパートナーと協業するのを探ってきたが、現時点では継続できる環境は見いだせていない。これらのことを取締役会に諮り、個人事業終了が議決されれば臨時株主総会に諮ることになる。

個人事業終了となった場合、コミュニティFM向けの配信事業はUSEN社の衛星を借りることを検討している。

<委員>インターネットへの展開はできないか？

<MB>IPマルチキャストを使い、サービスインしたことがあるが当時、総務省はIPマルチキャストのインフラは放送としていたが文化庁は通信であるとのことで、結果、停波した。その後、放送法、著作権法の改正により、現在、日本レコード協会ではWEBキャストの規定を行っており、音楽の使用は番組時間の50%までとなっている。当社の番組の音楽時間は90%を超えることから難しいと判断した。